

新春 対談

あけましておめでとうございます。みなさまには、新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。喫緊の課題であります新中核病院の整備につきましては、先月23日に起工式を執り行いました。今後は、建設を進めていくとともに、医師確保につきましても関係医療機関に働きかけてまいります。今後は、今後も生産年齢人口の減少などにより厳しい財政状況が続くと予想されますが、人口減少・定住促進対策や道の駅の整備、社会インフラの長寿命化など、山積する課題解消に向け、市政運営に全力で取り組んでまいりますので、みなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

みなさまにとりまして、本年が希望に満ちた一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

筑西市長 須藤 茂

新春特別企画として、真壁医師会会長の落合聖二さん、市医療監の水谷太郎さん、梶井英治さん、須藤茂市長による対談を紹介します。テーマは、建設工事が始まった「新中核病院」と、「今後の地域医療とまちづくり」です。

市長：本日はお忙しいところお時間を頂戴いたしました。ありがとうございます。まずはみなさまが、これまで地域医療にどう関わってこられたかを、お聞かせいただけますでしょうか。

水谷：私は過去30年程、筑波大学の教員として主に医師の教育に携わり、医師を地域に送り出す立場でした。また看護師、救急救命士、臨床工学技士などの教育にも関わってまいりました。



筑西市長 須藤 茂

10年程前から筑波大学附属病院の救急・集中治療部の仕事をされるようになり、ご縁があったとして新中核病院の仕事に関わらせていただいております。

落合：私は昭和54年に自治医大の一般消化器外科に入りました。その後、実家が協和町とい

かかりつけ医と連携して、二次医療 までをこの地域で完結させたい

うこともあって、この地域の医療を診てきました。

平成18年から医師会の活動を始めまして、21年には支部長として筑西桜川地域における医療提供体制の在り方検討会議に参加し、以後、地域医療について私なりに意見を述べてまいりました。

梶井：私は現在、市医療監を務めさせていただいており、一方で自治医科大学地域医療学センターに所属しております。

今から39年前に自治医大を卒業しまして、出身地の鳥取に帰り、第一線の医療に就きました。

そこは山の中の1万人程の町で、医師が極めて少ない地域で

して、その中でどういう風に医療を展開するかということ、医師や看護師、スタッフみんなで一丸となつて考えました。すると、自分たちの出身地の医療を守っていくという思いで、みんながつながったんですね。

自分自身の中の地域医療、あるいは医師としての原点がそこに宿っています。

市長：私はですね、この地域のクリニックや診療所など、一次医療はしっかりしていると思っております。実際には約70か所、桜川市には約20か所の診療所があり、一次医療の先生方がいらっしやいます。

市民のみなさんには、ぜひそういう一次医療の「かかりつけ医」を持っていただき、そこで治療や手術などができない場合の二次医療については、なんとかこの地域で完結できる体制を確立したい、それが市議会議員時代からの私の思いでした。

新中核病院は、この地域の特徴でもあり死亡率が高い、心疾患あるいは脳疾患というものに、しっかりと対応できる病院にしたいと考えています。

桜川市の県西総合病院と筑西市市民病院を集約するというところで、現在の両病院の診療科目なども大切にしていきたいと思いますが、当初の目的である心疾患や脳疾患などについては、二次救急までは、自治医大や筑波大学まで行かなくても済む、こ



一般社団法人真壁医師会会長
おちあい せいじ
落合 聖二さん

昭和 54 年 自治医科大学一般消化器外科
入局
平成 4 年 落合医院院長 (現在に至る)
平成 18 年 一般社団法人真壁医師会筑西
支部長
平成 22 年 一般社団法人真壁医師会会長
専門／肝臓外科、移植外科
現在／総合診療科

二次医療機関としての水準を確保し、 市民の期待に応えられる病院を

の地域で解決できる、そういう病院にしたいと思っています。
落合・平成16年に新医師臨床制度が始まり、これをきっかけに全国的な公立病院の医師不足、医師の偏在が起きました。
この地域でも公立病院の機能が低下して、患者の多くが近隣の筑波大学や自治医大などに流れて行っています。

療は地域で完結することが求められていたと思いますので、今回新中核病院ができることに關しては、我々としても非常に期待を寄せているところです。
ただし、ひとつ我々が心配していることがあります。それは、でき上がった新中核病院が二次医療を完結するだけの医療レベルに達していないと、一次医療を担う医師として患者を紹介するのが難しいということ。やはり市民が一番心配しているのは救急だと思えますので、その点を考えていただければありがたいと思います。

また、既に診療科目は決まりましたが、本当にここで必要なものは何かということが将来出てくるかもしれませんので、そのときには勇気を持って見直すといったことを、経営する方々にはお願いしたいと思っています。
市民の期待に応えられるような病院づくりをしていただきたい、それに対する協力はしていきたいと考えています。

ている資源をどう有効に使うか、どうやって最大限努力していくかを、みんなと一緒に考えなければいけないと思います。
求められる医療には、身体を治すだけではなくて、生活を見守っていくというようなことにも、高齢化が進む中で健康をどう守っていくか、病気で倒れたらどんな支援が必要なのか。介護も必要になるでしょう。地域包括ケアをどう充実させていくか、在宅医療をどう強化していくかなど、色々な課題があるかと思えます。

水谷・医療の厳しい地域はここだけに限りませんが、特にこの地域では、東日本大震災によって筑西市民病院の建物自体にダメージを受けました。二重三重の悪条件を被って、今このような医療の状況があると思えます。
新中核病院は、落合会長がおっしゃるように医療の質を保ちながら、二次救急を完結することを当面の目標にしたいと考えております。また、そのためにも医師会の先生方のご意見も常にかがたい、それを尊重して病院づくりをしていきたいと思っています。

私は新中核病院関係者に、これは私たちの病院だという自負を持ってやりましようと言っています。また市民のみなさんには、みなさんの病院だと思っで見守っていただきたいし、声をかけていただきたい、ご提案いただきたいとお願ひしております。
新中核病院は地域医療のコントロールタワーでもあります。地域をあげて市民のみなさんを中心に、医師会の先生方、病院関係者、行政が、みんなで共通の想いを持ってやっていかないとけないと思えます。

新中核病院完成予想図



筑西市医療監
前筑波大学附属病院副病院長
みずたに たろう
水谷 太郎さん

平成 18年 筑波大学大学院人間総合科学研究科助教授
平成 19年 筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
平成 23年 筑波大学医学医療系教授
平成 24年 筑波大学附属病院副病院長
専門/救急医学、集中治療医学、麻酔・蘇生学、臨床中毒学

二人主治医制の導入で、全国のモデルとなることを目指したい

水谷…新中核病院は、急性期中心の医療を提供し、この地域で二次救急医療までを完結する、まずはこれが重要な使命です。しかし、それだけではなく、医療法における地域医療支援病院という位置づけを獲得したい、それから、予防医学を実践したいと考えています。

診療体制としては、大学病院では臓器別の体制をとることが多いのですが、ミニ大学病院を作ることが目的ではありませんので、特定の臓器に限定せず、多角的に診療を行う、総合診療が主体になると思います。

また、この地域の特性として比較的近い距離に三次救急の医療機関や救急救命センターがありますので、新中核病院で対応が難しい三次以上の救急に関しては、そういった医療機関と連携して、患者さんに良い治療を受けていただくということになると思います。

そしていわゆる二人主治医制です。医療機関の役割分担を明確にして、通常の診療はクリニックで、急病や手術、複雑な検査は新中核病院で受けていただき、落ち着いたらまたクリニックに戻る。そういったやり

方を、医師会の先生方とがっちり連携して進め、全国のモデルとなることを目指したいと思っています。

もうひとつ、県西総合病院が現在この地域で唯一の災害拠点病院ですので、その立場を継承し、さらに発展させること、これも重要な使命であります。具体的には建物自体が免震構造でヘリポートを設置、自家発電で数日間維持できるような体制、断水になっても井戸水を使ってやっつけられる体制を準備しております。

さらに、この地域で様々な医療の人材を育てることや、子育て支援も重視していきたいと考えています。

梶井…水谷先生がおっしゃいました二人主治医制ですが、私がかかりつけ医である医師会の先生が主治医で、私たちが副主治医だと思っています。

二人の主治医が二人とも、患者さんお一人おひとりのことを存じている、たとえば落合先生から「梶井さん、ちよっとこの方を診てくれませんか」とご紹介をいただき、「わかりました。それでは一週間ほど入院していただきますでしょうか」というふう



新中核病院完成予想図

発信していただくことです。例えば災害などの時にも、地域の医療を取りまとめていただけるとありがたいと思います。

現在医師会では、災害医療の講習会をはじめとする色々な取り組みを行っています。高齢化が進み、皮膚科であれ耳鼻科であれ、あらゆる一次医療の現場で認知症の患者さんへの対応が必要となっていることから、年に4回、認知症対策講習会も開催しています。

にスムーズに進むようになれば、患者さんに安心していただけるのではないかと思います。

それから医師会の先生方もそうですが、県内、筑西・下妻保健医療圏内の病院の先生方とも交流していかなければいけませんし、大学病院などとは、あらかじめ診療の協定を結んでおくことも必要かと思えます。

落合…一次医療に携わるもの立場で新中核病院に果たしていただきたい役割というのは、梶井先生もおっしゃったように、コントロールタワーとしてこの地域の核となり、色々なことを

また医師会の提案で、それまで日曜と祝日だけだった市の休日診療所を、365日に広げて一次救急をやっつけようと、夜間休日一次救急診療所を始めました。インフルエンザの時期、日曜日には200人の患者を診ることもあるので、おそらくこの診療所がないと、新中核病院の先生方は疲弊すると思います。こういうことがもう現実には始まっているということを理解していただいたうえで、一次医療との連携を進めていただけたらありがたいですね。

新中核病院の機能として新たなものを取り入れることも必要だと思いますが、医師会などが行ってきた事業など、そういった



自治医科大学地域医療センター長
筑西市医療監

梶井 英治 さん

平成 7 年 自治医科大学法医学・人類遺
伝学教授
平成 10 年 自治医科大学地域医療学教授
平成 20 年 自治医科大学地域医療学セン
ター長
専門／地域医療、総合医療、血液学、
人類遺伝学

病院、地域医療、まちづくり、 3本の柱を立てて進めたい

たものも大事にしていたいで
すね、地域に既にある病院、
協和中央病院なども含めて、十
分な話し合いをしなければいけ
ないと思います。

市長・落合会長がおっしゃるよ
うに、新中核病院の運営は、一
次医療を担う医師会のご協力な
くしてできるものではありません。
今後もしっかりと意思疎通
がスムーズにできるようにして
いきたいと思っています。

それから、市民のみなさんに
地域医療についてよりご理解を
いただくことも大切ですので、
現在、水谷先生と梶井先生にお

願いで、新中核病院の概要と
地域医療についての説明会を開
催しているところです。

水谷・平成28年4月から12月
までに合計25回、様々な説明
会、意見交換会といった機会を
設けました。最初は県西総合病
院と筑西市市民病院の職員、そし
て市議会議員、市職員、市民の
みなさんと段々対象を広げまし
て、1月、2月もほぼ毎週、主
に公民館単位で市民のみなさん
を対象に、地域医療を考える公
民館講座を開催いたします。こ
ういった活動で市民のみなさん
に、新中核病院の性格や地域医

療に関する認識を持っていただ
ければと考えています。

梶井・市が行った平成27年度市
民意識調査では、「あなたは将
来の筑西市をどのようなまちに
していきたいですか？」という
問いに、「医療福祉の充実した
健やかに安心して暮らせるま
ち」という回答が圧倒的な1位
でした。また「今後筑西市にお
ける施策として重要だと思う項
目」では、「病院・診療所など
の医療体制」が断トツの1位で
す。医療という枠組みを通すと、
自分たちの住む地域のことが非
常によく見えるんですね。

私は市民のみなさんに、「今
度できる病院をどうしましよ
う、提案をしてください」とい
つもお願いしています。要望で
はなく提案です。「市民とか、
医療者、行政、そういう立場を
超えて、みんなが地域の生活者
として一体となつて、どんな医
療が必要なのか考えましょう、
地域をあげた病院づくりをしま
しょう」と。平成30年の開院予
定まで2年弱、みんなで見聞を
出し合って耕していく、非常に
大事な時期だと思います。

この地域には、地域医療を語る
会、民生委員、食生活改善推

進員、健康運動普及員のみなさ
んなど、医療や健康に関わる活
動をされている方たちがたくさ
んいます。そういう人たちが話
し合う、共有する場があつても
いいと思います。

みんなが自分の住む地域のこ
とを医療を通して考える、そう
いう中で輪が広がっていくので
はないでしょうか。地域が一丸
となつて課題を解決し、暮らし
良いまちを作る、そうすると地
域力が育ってきます。実はそれ
がまちづくりの力なんです。

ですから私としては、結果と
してまちづくりにつながるの
はなくて、最初から「病院づく
り」「地域医療づくり」「まち
づくり」の3本の柱を立ててやっ
ていきたい、そう考えています。
落合・病院が地域に及ぼす影響
はとても大きく、それには病院
が成功することが大事です。

先程の診療科目の件ですが、
病院に目玉となるものがあるか
無いかで、患者や医師、スタッ
フが集まる、集められる力が変
わってきます。将来的にでも
けっこうですが、他県からでも
患者さんが来る、私も新中核病
院で働きたいと医師も来る、そ
ういった体制を作っていただけ

ればと考えています。

また財政的にも、独立行政法
人という形にする以上、市民の
税金をいたずらに使わないよ
う、黒字化を目指していただき
たいと思います。

市長・そうですね。医師会の先
生方と連携し、ご協力いただき
ながら、市民のみなさんの税金
を有効に活用して、病院づくり
を行っていきたくと思っています。
先生方には、今後も病院づく
り、地域医療とまちづくりにご
協力をお願いいたします。今日は
貴重なご意見をありがとうございました。

